京城新報

人の一生は重荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價　一枚金三錢▲一ヶ月前金三十錢▲…
月曜日及び大祭日の翌日は休日（日刊）
廣告料　五號活字十七字詰一行金五十錢▲特別廣告五號活字十七字詰一行金…
發行兼編輯人　高木久太郎
印刷人　松久一郎
發行所　京城西小門通　京城新報社　電話六三番　振替口座京城四五六番
仁川支局　仁川宮町三丁目　電話二一一番
東京支局　東京市京橋區南佐柄木町七番地

寄書

人類學者泰斗スター博士來る(三)

濟軒學人

△朝鮮研究篤志家と語る▽

博士は先づ三宅君を其官邸に訪へり、三宅君博士を引て西洋應接室に招せり初對面の挨拶を交換し、主人は何にも珍客に電覽を請ふべき程のものなく然も態々訪問の厚意を謝する旨の讃詞に對へて客は余は朝鮮に關しては何等の知識なく爲めに此度此地に來遊したるものなれば如何なるものにても余に取りては研究の材料ならざるなし依つて請ふ如何なるものにても朝鮮研究に關するものは之を示されんことをと、茲に於て乎主人は二階の日本室に入來ありたし、然も疊の上にては客は困却ならんと客笑つて答へて、否とよ、余は日本の青年の何れよりも永く膝を屈して坐し得べしと、主人曰く然らば萬事可なり請ふ來れと客主人に從ひ二階の一室に入れは室内清楚、装飾端然として主人の嗜好の清高なるを示す、客坐蒲團の上に儼然として膝を屈し坐し主人の示すものを待つ、主人は已に室の一隅に數ヶ年間蒐集を勉めし、大、小の鏡を陳列し而して客の展覽を待ち、且つ一々其說明を試む、客は天下の鴻儒なり、其質問能く要を得、更に主人が一方の押入の襖を開き特に鏡の保管の爲めに新調せし架上より古鏡を取つて客に示す其數凡そ二百數十而して之れ皆殆んど種類を異にするもの客は愈々興に入り一々手に取り之を檢し、或は其裏面模様の意味、其年代等を質問し日人にして斯の如き朝鮮研究の爲めに志篤き主人公の如きわるを朝鮮の爲めに祝すと旨を述べ古鏡研究に關する日本及び支那に刊行されたる古今の書物なきやを問ひ主人は日本にて著述されしものは殆んど之れなし、只此迄雜誌等に出でたる斷篇のみと云ふ而して支那にては已に之れあり今其一つはと、主人公は立て書架より數冊の製本端麗なる漢文の書を持ち來り、客に示さんとし且つ之れ必ず博士の已に所有せらるゝ所ならん、客其書名を一瞥し然り然り余已に之を得たりと、已にして主人公は一問を發して曰く博士の研鑽せらるゝ所により、古鏡と云ふ立場より見て東西兩洋の文明の接觸するものあるを發見さらるゝやと客直ちに答へて曰く余は東洋に於て古鏡に於ける東西文明の接觸點はペルシャに於て發見す、と而して其證據の一端にして鏡の裏面の模様のペルシャ鏡と支那古鏡との類似せる時代あり云々と、時に婢あり客に茶を呈す客之を受く而して傍より西洋人には余り濃厚ならずやと思ふ間に客喫了す、其様少しも邦人に異ならず、以て博士の能く日本の事情に通せらるゝを知る時已に一時間半を過ごし尚前約の履むべきあれば、博士は主人公の厚意を篤く謝し、家を辭し、電車に搭して旭町一丁目に急行す、途上博士は先に三宅君に言ひし言を繰返へして曰く朝鮮を研究する篤志家あるは實に朝鮮の爲めに祝すと

雜録

朝鮮史蹟　倭城臺(下)

京城南冥生寄

之より先、小早川隆景開城に在り獨り京城に退くを肯んせずして曰く吾れ太閤の命を奉じて此地を守る未だ明軍の旗をも見ずして退かば何の面目ありて復た殿下に見へんやと、浮田秀家等之を如何ともすること能はず之を倭城臺の遊擊將軍に讓す大谷義隆曰く、よし然らば吾自ら開城に行て連れ歸らんと若手の家人を隨へて開城に向ふ、吉隆疾驅開城に至り隆景に面し諄々として利害を說くこと詳なり、隆景默然として頷けば宗茂等も之に應じて左らば引取り候はんと兵を收めて吉隆と共に碧蹄館に退く、吉隆は縱橫の論士也蘇張の辯を振ひしには相違なきも倭城臺諸將の實際の權威は浮田等の上に在りしを想察するに難からざる也。

既にして小早川隆景明の大軍を碧蹄館に破りしと雖も明韓の軍我に冠するの衰へず、時に我軍糧食に窮し、而して明軍と共に大に疲れ倭城臺將軍諸將の露々を應して和議を爲し、浮田秀家、毛利秀元をして兵を引て南に歸らしむ、京城山河の固め始めて解けて宣祖大王城に歸るを得たりと雖も昌德宮及景福宮の一部は既に京城自國の亂民に燒かれたり城内の荒涼民心の離散國王としての面目何くにありや。

萬骨黄土に枯れて三國の將帥功成り歸るものありや爾來秋風春雨三百年倭城臺は我武人が王都を占領せし一塲の夢の紀念のみ、英雄の功業も十萬貔貅の活躍も三百餘年只遂に夢を語るに過ぎざりき。

地球幾たびか回轉したりき國家民族の榮枯盛衰か期せずして來る如く天運の挽回も亦歲月を以て論ずべからず、吾人の遠祖が血を踏み旗を捲いて吞まんとせし朝鮮は今や談笑の間に併合せられたり、其輕重難易素より時勢の然らしむる所とは云へ抑も亦歷史的一種の連鎖の然るものなくんばあらず朝鮮總督府は今や毅然として倭城臺に屹立し十三道天下の政令一に此府に出づ朝暾鮮かに東海より出でて倭城臺の日章旗を照らすの時誰か今昔の感に堪へざるものあらんや此處の總督たる軍帥の得意可想也。

倭城臺の上より四方の風光を眺望すれば漢山は北方に聳ゆ漢江は市外を流れて眞に山河襟帶の地なり李成桂高麗を亡ぼして初めて國を建つるの時武威堂々として四隣を拂ひき誰れ亦李朝の衰滅を思はんや北漢山は昔ながらに高く漢水は洋々として長へに流る、吾人は此歷史的形勝の地位を占めたる倭城臺が益々雄威にして華麗なる歷史を後昆に發さんことを期せるもの也。

外事一束

△革命軍猖獗　漢陽漢口已に陷り湖南長州岳州亦危し自ら義勇軍と稱し列國

△に向つて嚴正中立を希望し戰時國際法に據らんとす北京は警戒嚴にして

△朝廷狼狽し陸海軍大臣急に赴く或は大事之より發せん乎風雲逆睹す不可

△獨民は一般に佛領公果の代償を得る格別の價値なしとして頗る冷淡也

△伊軍トブルクを占領す同地マルタと對抗しスヱズ運河を支配し易き處也

△新土國外相はトリポリ行政權を伊に讓り主權保持を基礎として談判せん

△英國大使旅順大連奉天を經て二十二三日頃安東縣を過ぎ京城に來らんと

梁川庄八

小金井蘆洲演

第十二回

語を更めた馬平　馬「若様……れ前様も何卒御父上様の御武勇にれ肖からしやつても、御短慮の所は肖かつて下さいますな、甚うも今日の佛様は若様の前だけれ共御短慮でございましたなあ……俺が未だ若い時分でございましたが、此阿隈川の轟ヶ嶽の麓の女夫ヶ淵と云ふ所、其處の深い所は渦を巻いてハア實に身の毛の竦立つ位の深い淵でございます、其女夫ヶ淵には昔から云傳へますが水魔が住んで居ると云ふ事でがあす、所が毎年夏になると若者等が水を浴びに行くと、乾度一夏に五六人位ヅヽは其所へ引込まれて終うだ、水魔に捲込まれて死骸が浮かんだ例がねへだ、夫を御先代様が聞かしつて、乃公が領分内に夫んな不都合な事があつては困る、領分の者が毎年五六人ヅヽも命を棄ると云ふのは何うも聞捨にならねへ、女夫ヶ淵の上下を堰ぎつて水を落して搔干にして其實證を見屆けてやる、と仰しやつて夫からハアー御先代様の御下知で、川沿の者が百八斗りで川上川下へ堤を築いて土俵を積み水車を掛けてドン〳〵水を搔出して、モー八分通り干して來たと思ふと、一天俄に曇つて細縄のやうな雨が降つて來て、忽ち堰は切れて又元の通りに成て仕舞ひました、據ないから又日を改めてやると又雨が降り出す、三度其斯う云ふ譯だから不思議の噂を立て四度目には御斷をすると云ふ譯、御先代様は剛情な方だから是非がねへと云つて、棒火矢杯を打込んだだけだ、退治が出來ず了いで止めになりしたが、夫から彼ちは水魔を彼様に困らしめて何か祟りがなけりやあ宜いがと云ひましたが、其後御先代様が七年前の今月今日不慮の御最期をなさるましたのも蔭では何でも水魔が祟つたんだろうと専ら噂をして居ります、夫だから若様も人が止めたら剛情を張らず、餘り武勇をれ振いなさいますなよ、是れは馬平が老婆心から御意見致ますからね」濟盧朴納の老爺が言語を盡しての長意見、聞居たる庄八正圀、水魔杯と云ふ者が世にある者か、畢竟無智無識の者が斯る噂を立てゝ愚夫愚婦を惑わすのだ、實證を見屆けて世人の疑念を晴して與んと思ましたから、夫となく威儀を正して馬平に向ひ　庄「馬平初め一同、乃公は父の法要に際して珍らしき話を聞た、父が退治を企て仕終せずに了たつは嘸殘念で有たろう、又父に崇たつとすれば其水魔とやらは父の敵の片割れと思はねばならん、取分けて衆人を艱ますと聞いては棄置き難い、庄八是より女夫ヶ淵に罷り越して其水魔とやらを、退治なし世人の惑を晴し領内の百性の患を除いて遣はし、父の追福の手向と致す一同倶に來て見物致せ」と以前に變る勇氣の有様、馬平初め一同驚いた　善「夫だから止せと云たのだ馬鹿な爺いだ、モシ若様止り成すつて」馬「夫んな事のねへ様にて御話をしただに若様御止しなせゑまして」と騒ぎだす、岩沼の德兵衛も倶に止めるのですが聞入ない　庄「イヤ止め立致すな……定めし魚鼈の類の仕業であろう、此庄八左様な者に打勝つ事が出來ん様では天下に名を成す事が出來ん我れ幸ひに水練の術を學んである正法に不思議なし、イザ水魔を退治してくれん」と唱名寺を立出る、據ないから村人一同跡から付いて行く、阿武隈川の轟ヶ岳の女夫ヶ淵有名な魔です現今は藩體は些しも有りません、誰やらが「陸奥に轟き渡る妙な淵今來て見れば音無ケ淵」と詠じました、十月三日の薄墨黛ヶ岳から吹下す風は凄まじく、水色青く渦巻き渡り身の毛の竦立つばから、勇氣凛々たる庄八、衣類を脱いで素肌に腹帯を締め、[illegible]後の一刀を確と帶び、用意して持つ[illegible]細綱を腰に付け、端を岸邊の[illegible]頭に結び付け　庄「一同乃公が水中に這入て此綱を曳ひたら、夫を相圖に一同で引張つくれ」と云置て身を躍らして、ドブン……飛込み水中深く潜入りました、付隨つて來た百性は何れも庄八の勇膽剛情に驚き呆れて、只腰縄の相圖を片唾を呑んで待て居ります中に、水面忽ちガブ〳〵と音がしたと見る間に紅を染出しました、其血醒き香が致します、一同「ヤアー夫れ若様が水魔の爲に喰はれなすつたぢやあねへ」かと云てる内に縄を強く水中で引きましたから、一同「ソレ」と一同が引張ると、稍あつて庄八は水中より口に國俊の刀を吹へて跳上りました。



北京特電

▲**叛軍の保安令** 湖北の叛軍は武昌漢江の人民に對し負擔保安の令を發したり

▲**張彪の兵戰意なし** 叛亂の武昌を免れ漢口に入りたる張彪の兵二大隊は戰意を有せず形勢を觀望しつゝあり

▲**張彪の進退疑はし** 張彪は江利郷に於ける兵員の逃走を默しつゝあり彼の進退は益々疑はし

▲**岑春煊再辭退** 岑春煊は健康勝れざるの故を以て四川總督を再び辭退したり

▲**保定軍の輸送** 保定府の四大隊第二鎭の大隊は續々進軍しつゝあり保定停車場に兵站部を設け只今の處にては送兵しあれども一[illegible]約一大隊なり

▲**蔭大臣の出戰** 蔭陸軍大臣は十七日砲數門及び氣球數個を携へ第三師團第五聯隊を隨へ豐太を出發し愈々戰途に就きたり

▲**除川の大激戰** 情報によれば四川の暴徒は勢益々猖獗となり南下しつゝあり嘉定は既に陷落し目下除州に於て激戰行はれつゝあり

▲**檄文配布と避難** 革命黨の檄文北京城内に配布せられ宮中に聞へたるを以て大官の恐慌甚だしく家族は天津地方に避難さるゝもの多し

▲**安化湖郷の占領** 湖南に於ける革命黨は湖北の革命軍と相應じ安化湖郷は確實に占領されたり

▲**袁世凱再諭旨** 袁世凱は病に托し總督任命を辭し其の任に堪へずとの電奏せしが攝政王は重ねて懇篤なる諭旨を下し至急湖北に赴任さるべしと命ぜられたり

▲**列國使臣に通告** 外務部は兩三日中より革命軍を攻撃する旨北京駐在列國使臣に通牒したり

▲**兩廣總督逃走** 南京に暴動起り總督衙門陥落し兩廣總督は僅に身を以て北方に逃走したり

▲**川島司令官の要請** 我が南清艦隊司令官川島少將は居留民に危害を與へざる樣軍艦を排置せん事を薩提督に要め其の快諾を得たりと

▲**清廷軍費に苦む** 清廷は軍費に事を缺き各省に對し納金方を督促せり官叛兩軍の決戰愈迫れり

▲**官軍漢口に着** 官軍は四川省のシンシンケン(不明)嘉定府、敍州を回復し叛徒は死者二十名を遺棄して潰走せり革命軍指揮官梁元洪は脫走せり六鎭の先鋒隊たる薩鎭氷提督の率ゆる軍艦八隻十六日暗夜に乘じて漢口に到着し提督は各國領事に租界地を保護すべく通牒を發したり

▲**川漢邊大臣任命** 趙三豐は川漢邊務大臣に任命されたり

東京電報

▲**陸海軍と外務省** 我が陸海軍兩省及外務省の當局者は十七日祭日なるに係らず出省出務頗る繁劇を極む

▲**袁世凱の進退** 袁世凱氏の進退は尚は不明なり

▲**上海財界の恐慌** 上海に於ける各銀行に對し取付け盛にして至る所紙幣不通となれり

▲**川島司令官** 英、佛、獨海軍は何れも軍艦を逆航せしめ英國司令官は漢口にて我が川島司令官に會合し英の希望にて川島司令官は從前の通り總司令官たり

▲**援軍の東進** 河南の援軍は續々反亂地に向け進軍しつゝあり

▲**四川は一帶無政府** 四川省一帶は騷亂の爲め全く無政府の狀態化せり

▲**我軍艦の増派** 我が軍艦秋津島は逆航し又驅逐艇敷浪も亦派遣さる可く事態頗る不穩なり

▲**伊土事件と各國** 伊太利帝國は飽迄トリポリを併呑せんの野心を抱き其主張を撤退せざる爲め列國は仲裁を見合せり

▲**北京半官報狼狽** 北京政府の半官報たる各新聞紙は革命軍の背後に日本ありて煽動し居れるが如き無稽不法の言論を爲しつゝあり

雑報

●**沿岸定期船の現狀** 去る九月末日調査に依れば朝鮮沿岸を發着する船舶の現在航路としては(一)朝鮮沿岸に限るもの(二)内地を起點として朝鮮に至るもの(三)朝鮮を起點として内地又は外國に至るもの、四種あり而して目下定期船の配在せるは(一)(二)(三)種航路にして(四)種航路に至りては未だ定期航海を開始するの時運に達せず定期航路中遞信省の命令に依るものは(二)種及(三)種に屬し朝鮮總督府の命令に依るものは(一)種に屬す別に陸軍省命令に依る(二)種長崎縣命令に依る(二)種及鐵道院の經營に依る(二)種等の各航路あり補助命令に依らず自營を以て定期航海を爲すものは(一)種航路の小區域間に多く他は極めて小數なり今此等の航路に配任せる船舶の大勢を示せば

(一)に屬する	四〇隻	三、七二九噸
(二)に屬する	一七隻	二四、〇五五噸
(三)に屬する	八隻	一三、四二六噸

にして更らに政府の補助命令に依るものと自營のものとを區別すれば左の如し

命令航路使用船(官營船を含む)	二七隻	三三、一一九噸
自營航路使用船	三八隻	八、〇九一噸

前記各航路の主なる經營者は大坂商船會社、日本郵船會社、釜山汽船會社、吉田船舶部、木浦航運會社、秋田商會、尼崎汽船部、川崎船舶部、原田商行、鐵道院等なり

●**英大使入京期** 過般來清國漫遊中なりし在東京英國大使マグドナルド氏は夫人及令孃を伴ひ來る二十四日安東縣出發入京の筈なり

●**安奉線開通式** 滿洲鐵道安奉線の開通式は愈十一月一日を以て擧行の事に決定せりと云ふ

●**馬山鐵道製作所** 鐵道管理局に於ては朝鮮全土の鐵道機具一切を供給する目的を以て馬山に一大製作所を創設するに決したるが右は從來草梁龍山兼二浦に製作所を置き列車修理及器具の製作に從事せしが追々鐵道普及の結果更に大規模の製作場を要するに至りしなりと

●**南清動亂と朝鮮貿易** △進辰馬氏の談▽

△輸入清國商品 清品の輸入さるゝは絹織物を第一とすべし而して之は目下動亂の中心たる武昌の上流の蘇州と稱する處の産物を主とし從て最も影響を蒙るは此品ならんが代用品も多き事故爲に打撃と云ふ程の事なからん此他山東鹽位にて數ふるに足らず此等支那品の取扱は支那人多く之に當り居れり

△上海經由商品 朝鮮の雑貨商は税關の關係より直接歐米本國と取引するもの多く假令上海が革命軍に冒さるゝども居留地にして安全ならば些の影響もなかるべし却て過般來の伊土戰争が直接にトルコ煙草に響きたるが如き事あり小許の雑貨は上海より購入さるゝものもあれども論ずるに足らず

△對清輸出品 も支那人の手に依て行なはるゝもの多く種類は牛皮、狐狸等の毛皮、麻、人蔘及精米なれども精米は滿州の日本人向にて其他は幾分の影響は免れざるべし新聞に見るも信用制度の破壊したる樣子なれば荷送りも困難ならん然し之を要するに朝鮮の貿易總額に比し僅少のものなれば革命黨の爲めに直接朝鮮經濟界に及ぼす影響はとり立てゝ云ふ程ならず然し之が爲

△大阪との關係 に何程かの影響を見るならんか大阪は既に新聞に見ゆる如く多大の影響を蒙り綿糸は三期を通じて暴落を示す有樣なるが朝鮮も雑貨は多く大阪より仕入るゝ事とて對清輸出品と同一のものは却て安價に購入するを得可し

△某銀行家の談▽ 南清の動亂が朝鮮の貿易及び金融界に及ぼせる影響は昨今のところにては殆んど風牛馬相關せずといふも可なり唯し又上海の爲替相場も些の變動を見ざるが要するに動亂の如何に依りては影響を蒙るは勿論なり而して京城にある清商は多くは北清のものにして南清とは關係薄し又世人も知る如く滿洲を除き朝鮮より清國に輸出するものは殆んど何物もなく從つて論議の餘地なし輸入品にあつても上海の變亂にしてなくば打撃を蒙るの氣遣ひはなかるべし

●**仁川附近の地價** 仁川を距る一里乃至三里程の地方に於ける昨今の地價一反歩約左の如し

△既耕地上水田百二十圓、下水田四十圓、上畑地六十圓、下畑地五圓

△未耕地(草生地)上五圓、下二十四五錢

寄書

釋宗演禪師を聽く 亡羊生

京城日報主催の下に十六日夜廣通館に於て開かれた禪師一行の講演會は近時無比の盛會であつた、思ふに斯の如きは主催者は勿論講演者に於ても嘸滿足に思つた事であらう。

定刻の至るや圓山太嶺師が壇上に現はれて開會の辭を述べた、圓山師は人も知る當地臨濟寺の主僧、其風貌の洒脱、其態度の綽々、口を開かざるに既に禪の何物たるかを語つた。師の說きしは心靈休養の必要、而かも言々語々[illegible]ならざるが如くにして禪意を體し、吾人をして人はパンのみにて生くるものに非ず、宜しく靈の糧に因つて生くべきものなりとの意味を十分に知らしめたのであつた。

圓山師に代り壇上に現はれたのは閻宮英宗師なるが此人年比較的若く從つて覇氣に富めるものゝ如し、師當夜の演題は梵語の「奢摩他」なりしが、其說きしところは應用禪にして、興味中々に深きものあり、但し間々生硬の嫌ある俗身談を挾みたるは遺憾なりし。

最後に壇上に現はれたるが、前圓覺寺の管長釋宗演禪師、當夜の聽衆は實に師に聴かんが爲に集まれるなりき。禪師咳一咳、聽衆自から襟を正す、師徐ろに口を開く、曰く禪とは何ぞ曰く心なり、心とは何ぞ曰く妙なり、妙とはなんぞと滔々數千言禪の何物たるかを明かにせんと勉む。而かも禪は素之れ不立文字、老師の辯を以てしても到底徹底せしむるを得ざりき。師の演題は「進一歩」乃ち百尺竿頭一歩を進めよとの意、說く所巧妙該博、聽者をして轉た醉はしむるの慨あり。拈華微笑是れ釋尊の所爲、禪は乃ち是れなりとは老師の口より出でたるところ茲に到つて吾人頑鈍と雖ども聊か禪の何物たるかを知ることが出來た。夫れ爾り吾人は師に因つて禪の何物たるかを知つた、爾り吾人は師に因つて禪の何物かに觸れた。宗演師の恩や洪大なりと云ふべしであるのだ。

師の說や甚だ深し、師の說や甚だ良し、故に師にして吾人に說くに禪は必なり妙なりとの範圍に於て止めんか、師の當夜の講演は大成効であつた、焉ぞ知らん師は慈悲心の溢るゝところ之を抑ふるに由なかりしか、其講演の末段に至り、彼の若僧の顰に傚ひ、聞くも曖昧なる應用禪を說いた、師曰く平等即差別、差別即無差別と、而かも方便とは云へ其說くところは弱者の不平を抑ふるに急にして、一言の遂に强者の濟度に及ばなかつた。尤も師は最後に於て、差別ならざる平等は惡平等、平等ならざる差別は惡差別と云つた、併し師は斯く言ひしも、結論に至る迄遂に平等ならざる差別の惡差別なることを明かにせずして止んだ、嗚呼吾人は師を目するに强者に阿ねるの俗物と爲さず、而かも差別を說くこと師の如くならんか、强者は好い氣になつて倍々跋扈するならんと、遺憾に思ひつゝ聽問を了つた。

之を聞く宗演禪師は精悍の人と、果して然らんか、當夜今少しく精悍の氣を以て聽衆に迫つて良かつたらうと思ふ。妄言多罪

●**商工調査會發會式** 商工會議所商工調査會發會式は既報の如く十七日午後二時京城商業會議所樓上に於て開催せられ列席者は來賓及調査員八十餘名にして先づ深水副會頭開會の挨拶をなし次に來賓人見商工課長古城民長峯岸本社長の祝辭演說ありて後深水副會頭議長席に着き調査會の規定を附議可決し後立食の饗應あり古城民長の發聲にて商工調査會の萬歳を三唱し散會したるは四時なりき

●**釋宗演師講演** 既記の如く釋宗演老師一行の講演會は十七日午後六時より南大門通り廣通館に於て開會せり定刻に至るや圓山大嶺師開會の辭を述べ次で異宮英宗師は「奢摩陀」てふ題下に約一時間に亘る講演をなし最後に釋宗演老師は「進一歩」なる題目の下に最も有益なる講演をなせるが當夜の聽衆は男女約七百餘名にして頗る盛會なりし

●**領事團ご招宴** 寺内總督は十八日各國總領事を招き晩餐會を開く由は既報の如くなるが陪席者は各部長官檜垣長官國分局長柴少將等にして總員二十六名なりと

●**軍司令官の檢閲** 上田軍司令官は南鮮の守備隊檢閲の爲め十八日午前九時南大門發列車にて大邱へ向たり

●**日常品移入關税割** 日本より朝鮮に移入せる諸物品の關税割を掲ぐれば食料品にして五分税に該當するものは麩、高野豆腐、蒟蒻、湯葉、唐辛等の如きものにして寢臺、椅子、机、卓子、戸棚木製、火鉢等は八分税に櫛、笄、花瓶玩具、遊戯道具等は一割税に竹柄杓コップ、サラ、鰹魚節削等は五分税に馬糞紙、鹽紙、古新聞等も同じく五分税に内地人建築用材料にして切組みたる自家用の材料も亦同じく五分税に該當すべしといふ

民團税制調査案(六) 杉山孝平氏の談

御尋ねの通り自分は民團より税制調査を囑託され同調査委員の一人であつたが中途一身上の都合に依り辭退したのでこれといふ案もないされど自分は最初調査を囑託されたとき斯ういふ考へを持つて居つた一体自治體といふものは或る場所を限つての法人團體であるにも不拘京城はさうでない單に内地人といふ名の上からのみいへば假令鮮人部落に居住して居るにせよ自治體の組織上間然すべきところはないが自治體としての區劃を限られて居らぬから從つて課税の上に於ても偏頗な點あるのみならず大体に於て自治の資格を缺いて居る假令ば本町道路擴張問題にしても幾分民團の負擔となる分は直接利害關係のある本町の居住者のみでなく一般の内地人に課税さるゝ譯だが是等は公共とはいふものゝ直接利害關係のないものに取つては何んとなく馬鹿〳〵しく感ぜられはしまいか衛生費にしても然うである(尤も現今は民團には關係はないが)鮮人部落に住んで居るものにしてイクラ自分のところばかり清潔にしても側が不潔では駄目だ少しも衛生の目的は達せられない道理由來自治體としての區劃が定まつて居らぬ爲めである而して日韓併合の今日にあつては何の道民團は廢止さるゝことであれば道路費などは總督府に一任するが至當であらう唯自治体としては教育に重きを置き完全にして時勢に適應した學校を設くるが宜い教育費ならば少々位重く課税されても各人が直接子弟の教育に關係ある事であるから異議なく納むる事は勿論である要するに税なるものは納税者をして遣ふといふ理由の下に納めなければならぬといふ觀念を確かならしむるが肝要である其の他家屋税戸別税等に就ては今之れといふ具体的の案もない貴問に對し甚だ漠とした答であるが一寸感想のまゝを御話した次第で……

●**道内務部長會議** 總督府は來る十二月十五日より五日間各道の内務部長會議を開催する筈にて目下準備中

●**十八銀行支店新築** 十八銀行京城支店は行務の發展に連れ從來の行舎にては狹隘を感ずるより先般行舎に隣接せる空地を買入れ建物百坪の設計にて來年早々建築に着手する豫定なるが全部竣工を告ぐるは來年末頃なるべしとのことなり

●**東拓移民地視察** 既報の如く德島縣阿波郡善入寺島の農民五百戸は東拓會社第三回の移民募集に應ずる筈なるが右移住地視察のため阿波郡長梶浦柳之助氏外四名は十七日本國を出發し十九日入京の豫定なりといふ

●**京城居留團墓地修理** 京城民團墓地は屯芝坊葛月里にあり坪數三千六十七坪なるも從來居留民の多くは火葬に附するを以て墓地を使用するもの至つて稀なるが民團にては本年度に於いて修繕費三百圓を投じ修理を加ふべしといふ

●**天長節と在郷軍人會** 在郷軍人會京城分會にては十一月三日の天長節には遙拜式を終りて後大運動會を催す計畫あり之に關し十八日京城第一分隊の講堂に於て委員會を開き打合せをなす由

●**宇佐川總裁歸任期** 北鮮地方を視察中の宇佐川東拓總裁は十一月十日頃歸任すべしと云ふ

●**倉富長官歸任** 司法事務打合せの爲め過般來上京中なりし倉富司法部長官には此程歸任したり

●**釋宗演師旅程** 目下滯京中なる釋宗演師は來二十二日當地發平壤鎭南浦新義州安東縣方面へ向ふべしと

●**米紳士の出發** 紐育日米協會々長ラッセル氏夫妻及び雑誌インデペンデント主幹ホルド氏の夫妻は既報の如く十七日總督邸に於て午餐を受け各所を觀覽したる上十八日午前南大門發安東縣に向ひたるが奉天大連を經て再び日本に向ふ筈なり

●**拓殖局書記官入京** 拓殖局書記官廣瀬温氏は滿洲よりの歸途十七日夜入京兩三日滯在の上歸東の筈

●**村田分隊長歸京** 管内巡視中なる村田第二分隊長は十九日歸京する由

●**市原鮮銀總裁の病狀** 市原鮮銀總裁は豫て病氣の爲め引籠中なるが差して懸念すべき程の事にはあらず漸次輕快に向ひつゝありといふ

●**聯絡船の延着** 十七日の關釜聯絡船は暴風の爲め延着したるにより十七日夜着の筈なりし内地よりの郵便物其の他は延着したり

公人私人

△野木傳三(農林學校教諭)十六日不二館へ
△中山友雄(皮革會社取締役)同浦尾へ
△青柳有美(扶桑新聞記者)同浦尾へ
△川島浪速(北京民政部顧問)同巴城へ
△福地信吉(工學士)十七日ホテルへ
△佐々木敏綱(辯護士)同ホテルへ
△宗像十郎(技師)十六日鎭南浦へ
△須田實太郎(商業銀行頭取)十七日釜山へ
△川島浪速(北京民政部顧問)同仁川へ

▲**京城手形交換高**▼

	金高	枚數
十月十八日	二三二、二七二、四〇	九六五

▲**茶袋**▼

清國の動亂も凄まじい勢で、四邊風を望んで起つと云ふ有樣である、而して叛軍が亂民の掠奪を抑制して紀律嚴肅な所あるを見ると其志中々侮り難い△此際中央政府の在る北京の狀態に、甚だ心許ない樣子が見はる、目下上下共極めて狼狽を極めて居る樣だ△南京、廣東、長沙などが既に叛軍の手に歸したと云ふ事は北京からの電報であるが、事實頗る疑はしい△それは兎に角、此大動亂の前途をトすべきは、清國陸海軍兩大臣の率ゆる征討軍の奏功如何にありだ△今日の電報によると官軍武昌に到着し叛軍の頭領が逃げたと云ふ事であるがこれが果して事實とすれば案外に早く叛亂も鎭定するかも知れぬ△當地曹洞宗別院にあつて、參禪者の爲めに提唱倦む所なかりし、田中道圓師は耳病の爲め歸國する事となつて次の離詞を寄せられた「一曲離歌切、抱痾歸故郷、潯陽吾去後、楓葉飽風霜」△田中師の去る甚だ惜しむべしであるが、しかし師の後を襲いで當地に留錫せらるゝは北野元峯師といふ有名な高僧であるから又意を强ふするものなきにあらず△北野元峯禪師は東京芝愛宕下青松寺の住職で曹洞宗屈指の名僧也、今や釋宗演師來つて講演を試ろみ、又た北野老禪師の駐錫を見るに至る京城の禪風從是益々振ふ事なるべし。

チャンピオン傳(八)

辻屋主人 松浦源治君

辻屋とは本町二丁目の和洋雜貨の大商店であると云ふことは當年四歳になる僕の所の子供でも知つて居る、此頃蓄音器や其音譜等を扱ひ出してから店頭更らに一層の賑かさを增した樣だ、君は民團議員にして商業會議所議員を兼ね衛生組長をして居る、斯くの如く多種の肩書を有するからであらう何事にも引合ひに出ること彼の同業靑木堂君と同樣である、是迄は隨分不品行であつたが近來大に感ずる所あつて謹慎して居る、或者は之れを以て尺蠖の屈するは伸びんが爲めなり君の謹慎も又似た樣なものだと云つてるが夫はホンの座興の惡口である、松浦君は**靑樓に歌舞遊宴**して居ても、**午後の十二時迄には必ず歸宅**して店から裏口の戸締まで嚴重に監督する如何に美しい妓に厚遇居ても乾度時間には歸宅する、而して君の遊び振りは藝妓を遊ばせると云ふ方で決して無理を云つたり駄々を捏ねたりはせぬ相だが豈に圖らんや夫れは其野心を滿す方便であると云ふのも餘りに穿ち過ぎた話だ、君の若遊三仕込みの踊は頗る鮮なもので就中『見島高砲』は得意とする所である、一度起つて此を踊ると一座は先づ汲物椀に蓋をし刺身、壺燒の皿に蓋なきを嘲たしむる程で手拍子足拍子ともに神に入つたものだ、と思つて居るのは御當人だけで見た人は案外感心して居ない、嗚呼天道是耶非耶と云ひたい位のものである、然れば此れは到底チャンピオンとして紹介する價値が無い、されば妻君とれ手ゝ手を取り交はし鴛鴦の番ひの夫れの如に肩押つ付けでれ芝居見物**家庭圓滿五穀成就**れ淺山吹黄金の花が咲いて榮ゆる商賣繁昌と云ふれ安くない所で紹介しようか、併し此れは今日迄君が花柳界に浮名を流して居ただけに實際以上に人目を惹くのであるかも知れぬ、として見ると君子は危きに近よらずモウ少々長い眼で拜見した上の事と致す、と何も彼も難癖を附けて仕舞つて扨さらば何のチャンピオンと致さうかと考へて見ると有るワ有るワ大に有、、君は大の葡萄酒好きで五六本迄なら何時でも引受ける『葡萄酒なら何人にも劣らん心算です從つて種々のものを用ひて試ましたが私は**メルマン葡萄酒が諸種の中で一等佳良**だと思ひます……六本迄なら何時でも」と云つて葡萄酒飲用家のチャンピオン然として居るが其實は豈圖らんやである、葡萄酒の好な事は事實であるが君の言ふ意味は他にあるのだ、凡百機會を捉ふるに敏なること敬服の外はない、茲に**廣告法會得のチャンピオン**として紹介する、斷つて置くがメルマン葡萄酒は君の所で販賣して居るのだ(終)

●薄月夜渡雁金

▽便待つ秋の長き夜

本町一丁目の北内君に落籍された元花月の君江拍子が再勤運動の内幕は一寸報道した通りなるが其後トンと音も沙汰も無きに君や病氣にでも罹つてるのぢやないかと時候柄心配性の兎耳子が探つて見ると此は又如何な事北内君夫れ以來君江に逃げられるか又は花月から再勤でもされた日には事情が事情だけに男の一分相立たず親元の要求通り三百圓は調達して遣るから決して左樣云ふ短氣を起して呉れるなと威しつ賺しつ拜みつして因果を含めて目下日の出小學校附近の某家に預け嚴敷監視を附して金策中なるが爲め扨こそ一時沙汰止の姿なるなりとぞ、然るにても君江如何に薄情稼業をして居たとは云へ一旦自身も承知の上で落籍され又親の無心の假令半分にても背いて呉れた北内君を袖にして水臭い再勤沙汰なぞを持ち上げたのには既報の事實以外の事情なかる可らずと探つて見たるに北内君には氣の毒だが君江はソモ〳〵から末永く御世話に成つて居る氣は無かつたので、折があつたらと云ふのが君江の北内君に對する根本政策なのだ即ちです生命迄もと云ふ人は龍山守備隊附の中村ざかと云ふ大尉さんで此の落籍沙汰の起つた當初は恰も田舍に出張中だつたので相談も出來ず落籍されて居れば身は自由だ戻られたら相談の上での了見、とは知らない中村君歸ると直ぐに花月に馳け着けて見ると君江は北内と云ふ町人に落籍されたと云ふ、懸ては總督にも成れる軍人が町人に負けて堪るものかと一時は大に憤慨したが考へて試ると君江の爲めには至極の仕合せ決して怒る所に非すと流石軍人の潤然悟つたが何とも云はずに此儘別れるのも殘り惜しい氣もし幾分は斯う妬、?とぢやないが嫉ましくも思はれるので『曾つての契を反古にして加かも僕の不在中人もあらうに町人に落籍されるとはれ恨みなり併し夫れは僕の私情れ前樣の身に取つてはれ芽出度う」と特に「れ芽出度う」と云ふ字を大きく書いて君江に逢つたら之れを渡して呉れと仲居のれ君に一封の手紙を托して淋しく龍山へ歸つて行つた(つゞく)

●寶られたる僞志士

△憤慨して强盜となる

慶尙北道豐基郡下里面縣村當時京城北部諫洞二十六統七戸居住侍天敎々徒次山一郎事張壽浩(三二)及慶尙北道聞慶郡東魯所面水坪里一統七戸侍天敎々徒尹聖允(四二)等は元一進會員の有力者として李容九と共に十數年來義兄弟となり國事に關し東西奔走せし者なるが李容九が今日の境遇にあり且つ多大の蓄財あるにも係らず其の部下同志に對し何等救恤を爲さゞるを憤慨して一面李容九に恥辱を與へ金員を奪取せん事を相謀り本年六月二十二日京釜線成歡驛に下車し同夜忠淸南道稷山郡北面已洞にある李容九の亡父の墳墓を發掘し頭蓋骨を取り出し之を京城北部三淸洞の山中に隱匿し七月二十三日より八月十五日迄の間に於て數回李容九に强迫狀を送り金十萬圓と引替へに該頭蓋骨を渡す可しと强請し一方李容九は日本內地に旅行中に付家族に於て調金中にて目的を果さずして其筋に檢擧され兩角檢事の手にて取調終決强盜犯として公判に付せられたり

●多之助綾之助を食ふ

▽不心得な母親かな

原籍下の關細工町一七七七遊藝人桔梗綾之助事福山よね(三二)は去十五日仁川本町一丁目旅宿花屋に幼兒を伴れ投宿し翌十六日京城の氏名不詳の者より金二圓の電報爲替を受取り午後七時頃榮亭の藝妓榮吉に一寸所用あるにより暫時の間此の子と此の行李を預かつて置て貰ひたいと言捨て三味線入の信玄袋を携ね花屋を出てしまひ今以て歸り來らず子供は五才の男子なるが母に捨てられしには非ずやと目を泣き腫らし居るより同家にても持餘し十八日仁川警察署に屆出でたりと因によねは浪花節芝居の多之助に引懸りしには非ずやの說あり

●馬頭山上の落花狼藉

▽强姦犯人逮捕さる

中部長通坊中谷洞四十五統十二戸理髮職李元來(三二)東部蓮花坊登子洞三統三戸人力車夫朴聖元(二〇)は共に去る八月二十九日京城日報主催日韓併合紀念祝賀提灯行列に參加し歸途朴召史金召史の兩少女を東部館洞所馬頭山に連れ行き强姦して朴聖元は翌日東部署に逮捕され京城地方裁判所に於て懲役五年に處せられ服役中なるが李元來は逃走中なりしも十六日東部署刑事に逮捕され目下取調中

●トンダ石川五右衛門

▽高等女學校階上に借伏

山口縣大津郡仙崎村當時住所不定立野正一(三二)は十七日午後七時頃高等女學校二階に借伏中を宿直教員に認められ警察に引渡され拘留十日に即決

●謀殺未遂犯人の起訴

▽内縁の妻を淸凉里にて

山口縣人當時吉野町三番戸土方職稻田紋藏(三〇)が内縁の妻桶上しま(三八)を東大門外淸凉里閔妃の墓地に於て絞殺せんとしたる事件は豫審終決して兩角檢事の手にて謀殺未遂犯として公判に

●無責任なる人親

仁川寺町二丁目二十五番地ノ十三大工職菩平の妻佐藤よそ(三六)は夫菩平が鎭南浦地方へ出稼不在中産後血の道及黄疸病併發し起居自由ならず八才以下の小兒四人を抱へ泣暮し居るに菩平よりは更に送金なく困難の狀は見るに堪へざるものあるより仁川民團の中津監視より救護方願出でたれば取調の結果這般仁川醫會より申出たる施療券を下附されたり

●嫉妬から大亂暴

本籍兵庫縣神戸市花熊町三百二十九番屋敷當時龍山大島町四十番戸無職新濱龜太郎(三八)は知人なる同町四十四番戸材木商岩崎好之(六四)が自分の妻きく(三九)と怪しき關係あるものゝ如く疑ひ十七日太く酒氣を帶び好之方に侵入し暴れ居りたる處を巡回中の巡査に取押へられ龍山警察署に引致せられたりと

●**酒を飲で叱らる** 大分縣人當時北米倉町理髮職手島朝七(二七)同縣人當時相生町大田秀吉(三五)山口縣人當時南山町一丁目京城郵便局配達夫取締竹本久次郎(三九)等は秀吉方に於て飲酒の末喧嘩をなしたる爲め南部署に於て說諭放免

●**亂暴して拘留五日** 旭町一丁目別府組車夫鹿兒島縣人谷山辰三郎(三二)は十七日午後十一時頃本町一丁目裏通り本田旅館前にて同家雇人松岡良平に暴行を働き菊鉢二個を破損して南部署に突き出され拘留五日に即決

●**日の出湯ノ大改良** 當地旭町一の同湯は今回野村吉三郎氏の手にて營業する事となり目下浴場は勿論階上に休憩室となし娛樂的設備をなす等總てに大改良を加へ十七日より開業せり

●**鮮人車夫を撲る** 熊本縣人當時旭町一丁目一二八番戸山副昇(三二)は鮮人車夫金公善を毆打負傷せしめ南部署に訴へられ目下取調中

●演藝だより

▲**寶座** 十九、二十の兩日開演する後藤一座の代狂言は大倉桃郎作「琵琶歌」全九場にして重なる役割は左の如し

西村令太(内田)花浦令孃菊江(松下)小學教員武田貞二(藤野)三藏妹里野(藤田)貞二母れた(深津)父政次、江島春次郎(雪岡)荒井三藏(後藤)

▲**浪花館** れ馴染の福圓一座十九日夜の出し物番組左の如し

兵庫船(枝輔)ヤカン(小ゑん)イハイヤ(圓松)太神樂(福樂)ゑん馮白(圓三)五人廻し(芝鶴)娘奇術(喜代子)住吉駕(福圓)切喜劇總出

●本願寺經營行路病者收容所の三十分

白面子(五)

仁丹の十粒に氣分を快復し僕は歸途南部署に今村署長を問ふたが生憎署長は不在であつたので井口警部に會つて前記收容所の現況を物語ると同氏は本願寺の無情と民團當局者の冷淡な事を憤慨し更らに被等被收容者即行旅病者なるものは憐れむべきものであると思へばこそ本願寺でも民團でも彼の收容所を經營し補助して居るのであらう、既に之れを必要とし經營する以上は彼樣不潔極る事では駄目だ現在自身(井口氏)視察の際も惡臭に堪ね得なかつたので歸署後直ちに人夫を連れて淸潔法を施行した程であつたと語り更に昨年の冬も警察の方で見るに見兼ねて衣類其他の寄附を誘導して正月をさせ今夏は御存じの通り署の方で盡力して單衣を着せたのです、斯うして**他人が干渉箇間敷い事**を爲ても**本願寺の僧侶達は平氣**で自分の不行屆を愧とも思はず結局世の中は調法なもので却つて手數が掛らなくつて宜い位に思つて居るらしいと嗟嘆する、僕曰く本願寺は其**宗旨が他力本願**で何事もアナタ樣任せ……但し借金丈けは信徒任せに出來上つて居るのですから夫れが彌陀の本願かも知れませんねと云ふと井口氏は洒落れちやア困りますよと苦笑して居たが「全くモ少し何とか致たいものですが御盡力を願ひます」と云はれる、南部署を辭してから收容患者の診療受け持の**漢城病院**に**安藤院長**を訪ふて收容患者診療上に就て不親切との非難の聲があること、衛生上の施設に就ても相當干渉されたき事等を述べた所が安藤院長は「有難い御忠告深謝の他は無い」と句を切つて扨實は御言葉迄も無く**收容所の不完全**な事に就ては**輪番衆**に對し此れ迄幾度となく**意見を述**べたが毎時も豫算が無いと云つて聞き入れない、然らば病室を漢城病院内に移されたい萬事實費で引き受ける、と迄申しましたが**病室を本願寺境内以外に移**したら**寄附が無**くなるからとて應じないのです……寄附金は隨分ある相ですがね、と云つて安藤先生は口を噤んだ、本願寺たるものは收容所に對する寄附金品の出入を明にすべきであらう。先日の事とか三宅貞雄なる一患者は事に依つて一重病患者を蹴飛ばした爲め被害者は診斷書を請求したとか此なぞも其監督保護の屆いて居ない證據である(つゞく)

▲**行路病舍より**▼ 十六日三名の美人が訪問されて何用あつてと問へば「私共は淸華亭の者なるが新聞を見て同情に堪ねず何か寄贈したいと思いますが取敢へずれ見舞だけに」と吾等は感涙に咽びました(記者云)右は取調べの結果淸華亭の**政菊**、**鶴羽**、**金五郎**の三妓にて同家内の有志とも相談の上隨分慰問の意を表せんとて目下計畫中なりと